

令和4年度 神奈川県小学校・中学校教育課程研究会 提案資料

部会名 総合的な学習の時間

令和4年度県央地区中学校教育課程研究会研究主題
「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」

テーマ

総合的な学習の時間の授業改善
～1年生福祉学習を通して～

地区名 県央地区

所属校 座間市立相模中学校

名前 將基面武

※生徒のワークシート等の記述については、すべて提案資料への掲載の許諾を得ています。

I はじめに

1 主題設定の理由

(1) 本校の総合的な学習の時間の課題

本校では、総合的な学習の時間において、1年生では福祉体験を中心とした「福祉学習」、2年生では職場体験を中心とした「職業学習」、3年生では生徒各自の興味・関心に基づく「個別課題研究」を実施している。各学年共に、生徒はそれぞれのテーマに対して真剣に学習に取り組んでいる様子が見られる。

一方で、本校の総合的な学習の時間の全体計画で示されている目標には、育成を目指す「資質・能力」が具体的に示されていない状態であった。また、各学年の総合的な学習の時間の取組内容は関連性が乏しく、日々の授業も計画的に行われているとは言えない状態であり、前の学年での学びが次年度の学習に生かされにくい状況が見られた。このような状況では、生徒がどれだけ真剣に取り組んだとしても、総合的な学習の時間を通して生徒に効果的に「資質・能力」を育成することは難しいのではないかと考えた。

(2) 研究の方向性

そこで、現状を改善するために、以下の3点に取り組むこととした。

- ①総合的な学習の時間の目標（生徒に身に付けさせたい「資質・能力」）を明確にする。
- ②目標の達成を意識して、1学年の単元である「福祉学習」の指導・評価計画を作成し、授業の中で指導を工夫する。
- ③3年間を通して「資質・能力」を育成するために、総合的な学習の時間の全体計画を改善する。

①については、学校として総合的な学習の時間の全体計画の中に目標が設定されていたものの、平成29年に告示された中学校学習指導要領（以下、「新学習指導要領」とする）で明示された「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱から明示された「資質・能力」の形で設定されていない現状から、ゴールとなる目標や、単元の評価規準を明確にすることとした。

②については、①で設定した目標や評価規準を達成するために、自分の担当学年である中学1年生の「福祉学習」の単元の指導・評価計画を立て、目標の達成を意識した授業の中での指導や評価を工夫することとした。

③については、1年間の取組だけでなく、3年間を通して生徒に「資質・能力」を身に付けさせるために、本校の総合的な学習の時間の全体計画を、現在の取り組みを全て否定するのではなく、「新たに設定した目標を達成するためにどのような取り組みを行えば良いか」という視点で見直すことにした。

II 研究内容

1 研究仮説

上記の研究の方向性を踏まえて、以下のような研究仮説を設定した。

育成することを目指す資質・能力を明確にした総合的な学習の時間の目標を設定し、目標達成を意識した指導・評価計画を立てて、現状の学習活動の位置づけを見直すことによって、生徒に身に付けさせたい力を効果的に育てることができるのではないか。

2 総合的な学習の時間の目標（生徒に身に付けさせたい「資質・能力」）の明確化

（1）学習指導要領における「資質・能力」との関連

総合的な学習の時間において育成することを目指す資質・能力については、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」という3つの柱から、「新学習指導要領」に以下の通りに示されている。

- （1）探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- （2）実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- （3）探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

また、総合的な学習の時間の目標については、上記の目標を踏まえた上で、「各学校における教育目標を踏まえ、総合的な学習の時間を通して育成を目指す資質・能力を示すこと」とある。そこで、まずは中学1年生の「福祉学習」において育成を目指す資質・能力を、本校の学校教育目標や座間市の学校教育指導計画を再確認した上で、再検討することとした。

（2）「福祉学習」と座間市学校教育指導計画および、学校教育目標との関わり

中学1年生の「福祉学習」で扱う「福祉」とは、「困っている人を助けようとする事」である。これは、学校教育目標（P3に記載）にある「社会貢献できる生徒」や、座間市の学校教育指導計画である「豊かな心を育むひまわりプラン」（以下、ひまわりプラン）にある「こんな大人になってほしい」の中の「温かな心で人とかかわり合い、奉仕の心で人の役に立つ」という部分につながる事が分かった。

「こんな大人になってほしい」

- 自分のよさを大切にし、健康で自立した生活を送る。
- 正義を尊び、自らを律し、責任ある行動をとる。
- 目標に向かって学び続け、新たな価値を創造する。
- 温かな心で人とかかわり合い、奉仕の心で人の役に立つ。
- 郷土への愛と誇りをもち、国や社会の発展に尽くす。

（ひまわりプランP4より引用。網掛けは報告者）

そこで、今回の「福祉学習」では、「福祉とは何か」という知識を身に付けさせるとともに、学んだ内容を自分事としてとらえ、実生活に生かそうとする態度を身に付けさせたいと考えた。

- 教育基本法の法令
- 新学習指導要領
- かながわ教育ビジョン
- 座間市教育委員会

【豊かな心を育むひまわりプラン】



- 生徒の夢や希望
- 地域や保護者の願い
- 教師の願い
- 本校の課題

教育理念

「心弾み 心豊かな未来の創世」

《学校教育目標》

自ら考え、豊かな創造力を育み、社会貢献できる生徒の育成

<p style="text-align: center; color: red;">めざす学校像</p> <p>意欲的で、創造的な様々な活動が、学校・家庭、地域の一体感の中で展開され、共に生きる喜びを常に感じながら、豊かな心が育まれる学校</p>	<p style="text-align: center; color: red;">めざす生徒像</p> <ul style="list-style-type: none"> ★夢と志をもつ生徒 (志) ★知的創造力を培う生徒 (知) ★思いやりのある生徒 (徳) ★たくましく生きる生徒 (体) 	<p style="text-align: center; color: red;">めざす教師像</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ わかりやすい授業をめざし、指導力向上に努める教師 ★ 愛情をもって生徒に真剣に向き合える教師 ★ 地域・保護者に信頼される教師
---	--	--

〈令和三年度重点目標〉

知識をつなぎ、思考を広げ、自らの考えを表現しよう!

<p style="text-align: center; color: blue;">【 学校づくり 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○インクルーシブ教育の推進 ○自治活動となる生徒会活動の育成 ○ボランティア活動・部活動の奨励 ○不登校対策及び外部機関との連携 ○小中連携の推進 ○防災教育の充実及び施設設備の保全 ○HPやお便り等での情報発信 ○PTAや地域との連携を図り、コミュニティ・スクールに向けての準備 <p style="text-align: center; border: 1px solid red; border-radius: 50%; padding: 5px; color: red;">学校が楽しい</p>	<p style="text-align: center; color: blue;">【 学級・学年 自分づくり 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自己肯定感や自己有用感を育むとともにけじめのある生徒指導 ○個に応じたきめ細やかな対応 ○朝読書の習慣化 ○Q-Uを活用した教育相談による早期発見・迅速な対応 ○学校行事や体験学習など集団活動を通しての感動体験 ○健康維持促進のための啓発活動の工夫（感染症対策を含む） <p style="text-align: center; border: 1px solid red; border-radius: 50%; padding: 5px; color: red;">自分の役割 (居場所)がある</p>	<p style="text-align: center; color: green;">【 授業づくり 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本の定着からの学力向上 ○学ぶことへの見通しをもった授業 ○「思考し判断し表現する」場面の設定 ○指導形態や、ICTを取り入れた教材開発（タブレットの有効活用） ○研究授業・授業参観の充実 ○家庭学習の充実 ○道徳教育の推進 <p style="text-align: center; border: 1px solid red; border-radius: 50%; padding: 5px; color: red;">授業が分かる</p>
--	---	---

(3)「福祉学習」の目標（育成を目指す具体的な資質・能力）及び評価規準の設定
 本校の総合的な学習の時間における目標は、以下の通りである。

将来をたくましく生きる力を培う
 様々な事象に関する体験活動の場で、学び方やものの考え方を身に付けようとする問題の解決や探究学習を行う中で、自ら課題を発見し、仲間と協力して粘り強く取り組み、自分の生き方を主体的に考えようとする。

ここでは、育成を目指す資質・能力について示されていない。そこで、この目標とともに「新学習指導要領」、「ひまわりプラン」、「学校教育目標」を踏まえ、中学1年生の「福祉学習」で育成を目指す具体的な資質・能力及び「内容のまとめり」を、以下の通りに整理し、単元の評価規準を設定した。（評価規準そのものは、P7の指導案に記載）

探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
福祉に関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、福祉に対する自らの認識の高まりが、探究的に学習してきたことの成果であることを理解する。	福祉体験の講座テーマから問いを見だし、その解決に向けて見通しを立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。	福祉についての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、福祉に関することを自分事としてとらえ、学んだ内容を今後の実生活に生かそうとする態度を養う。

【内容のまとめり（中学校1年生）】

探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力		
	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
福祉に関する諸問題	<ul style="list-style-type: none"> ・困っている人をサポートするという「福祉」の基本的な考え方や、身の回りのバリアフリーやユニバーサルデザイン、福祉体験のテーマに関する内容について理解する。 ・パソコンや資料を用いた調査活動や講師の方への質問を、自分のテーマに応じて実施する。 ・福祉に対する自らの認識の高まりは、探究的に学習してきたことの成果であると気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉体験の各講座テーマについて、自分が知りたい内容を見つけることができる。 ・パソコンを用いた調査活動や講師の方への質問を、自分が知りたい情報に応じて行うことができる。 ・学習発表会に向けて、各講座テーマに関して自分が調べたことや体験したことを整理し、結び付けて考えることができる。 ・学習発表会において相手に伝えるように分かりやすくまとめ、表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉体験に向けた調べ学習において、班員の調べた意見を参考にして、探究活動に進んで取り組もうとする。 ・班員の長所を生かして、協力して学習発表会に向けた準備や発表に取り組もうとする。 ・福祉に関することを自分事としてとらえ、学んだ内容を今後の実生活に生かそうとする。

(4) 「資質・能力」を明確にした目標の検討における成果と課題

成果としては、1学年の取り組む「福祉学習」を通して育成を目指す「資質・能力」を、学校教育目標等と関連させて3つの観点で整理できたこと、単元の中のどの学習場面で何を評価すべきかを整理できたことが挙げられる。一方で課題としては、今回作成した目標が1学年の「福祉学習」のものに留まり、3年間を通して育成を目指すものではないことである。この点は、後述の全体計画作成の過程で、他学年の総合的な学習の時間の担当者と協議して考えていくこととした。

3 授業実践の概要

(1) 単元「福祉学習」の指導・評価計画の作成

上記を踏まえ、中学1年生に取り組んでいる「福祉学習」の単元計画を作成した。指導・評価計画での工夫点は、以下の3点である。

①単元全体が「探究的な学習の過程」となるよう意識して構成したこと

本校の「福祉学習」は、「福祉体験・講演会」を中心として構成されている。「資質・能力」を育成するために、単元を通して「探究的な学習の過程」の繰り返しとなるように、各学習活動が「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」のどの部分に当てはまるのかを意識して取り組むため、学習活動のねらいに明示することとした。

②「福祉体験・講演会」を生かすために事前学習を位置づけたこと

本校の1年生は、1学期にインターネットやSNSの使用上の注意について学ぶ「情報モラル」講演会を実施した。この時、生徒たちには講演会のテーマのみを事前に伝え、特に講演会に向けた事前学習は行わなかった。当日、生徒たちは身近なテーマということもあり、興味をもって参加していたが、講師の方から質問を求められた時に何も出なかったクラスが見られた。講演会で質問するためには、その日にはじめて聞いた話と、日常的に抱えている（または聞いた内容に対して自分が抱いた）疑問を結び付けるという作業が必要となる。結果として、授業等で発言や質問をよく行う生徒のみが質問することとなった。

「福祉体験・講演会」は、福祉に関する専門家から「情報収集」ができる貴重な機会である。その機会を最大限生かしたいと考え、事前学習を「講演会で自分が何を学びたいか」を決める段階としてとらえ、そのテーマについて事前に知識を得たうえで、直接聞いてみたい質問を考えるために「福祉体験・講演会」に関する内容の調べ学習を行うこととした。

③学びを表現する場として、「学習発表会」を設定したこと

今年度は感染症対策の観点から、「福祉体験・講演会」はクラス別に講座を設定して実施することとなった。これに関する問題点は、以下の3点だった。

- ・各クラスごとに1つのテーマしか学べない。（「知識・技能」に関する問題点）
- ・「整理・分析」「まとめ・表現」を行う学習活動が不足する。（「思考・判断・表現」に関する問題点）
- ・協働的に学ぶ学習活動が不足する。（「主体的に学習に取り組む態度」に関する問題点）

問題点を解決するため、「学習発表会」を設定することとした。発表は班単位で行い、発表を行う教室に全クラスの班を割り振ることで他のテーマについて未習である他クラスの人に対して学んだ内容を発表することとした。

総合的な学習の時間学習指導案

座間市立相模中学校

指導者 將基面 武

- 1 日 時 令和3年11月26日(金) 第4校時(11:55~12:45)
- 2 学年・組・場所 第1学年3組(38名) 1年3組教室
- 3 単 元 名 福祉学習
- 4 単元について

(1) 単元観

中学校学習指導要領解説第4章第1節には、指導計画の作成にあたり、効果的な学習が展開できるように、次のような配慮すべき内容が示されている。

年間や、単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。

本校の総合的な学習の時間は、「将来をたくましく生きる力(課題を発見する力、仲間と協力してねばり強く取り組む力、自分の生き方を主体的に考えようとする態度)」の育成を目標とし、1年生で「福祉学習」を、2年生で「職業学習」を、3年生で「個別課題研究」を軸として構成されている。個々の学習活動に対して、生徒も真剣に取り組んでいる。

1年生で行っている「福祉学習」では、毎年講師を学校に招き、福祉に関する様々な体験活動や講話を実施している。この福祉体験の前後において、計画的に探究的な学習が進められるよう学習活動を設定することで、生徒に「将来をたくましく生きる力」を育てたい。

(2) 生徒観

福祉学習を進める上で、テーマに対してどの程度の事前知識があるのか、導入部でウェビングマップ作りを行った。その結果、福祉に関して多少の知識を持つ生徒もいるが、よく分かっていない生徒が多いことが分かった。

生徒は全体的に落ち着いており、授業に対して集中して取り組む姿が見られる。今年度より個人の端末が使用できるようになったことで、各教科で調べ学習の機会も増えたものの、パソコンやインターネットを用いた作業に対する習熟度にはばらつきがあり、一生懸命取り組むものの、調べ学習の時間を設定しても中々進まず、決められた時間内に作業が終わらない生徒もいる。

(3) 指導観

以上の点から、以下のようなことを意識して授業を行う。

- ①学習するテーマに対して自分事として学習に取り組むために、バリアフリーやユニバーサルデザインなど、生徒の生活体験で理解できるものを授業で取り扱い、福祉に関する基本的な知識を補完する。
- ②学習の目的や日程を示し、生徒が見通しをもって取組みやすくする。
- ③調べ学習時には、授業の最初に今日調べること(前回記入済み)を確認し、最後に

次回調べることを書かせることで、1回の授業で自分が学んだことを意識できるようにする。

④協働的な学習の場면을意図的に設定し、仲間と協力してねばり強く取り組む力の育成につなげる。

5 単元目標

探究的な見方・考え方を働かせ、福祉体験や学習発表会に関する総合的な学習を通して、課題解決に仲間と協力して粘り強く取り組み、自分の生き方を主体的に考えることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。

○福祉に関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、福祉に対する自らの認識の高まりが、探究的に学習してきたことの成果であることを理解する。

○福祉体験の講座テーマから問いを見いだし、その解決に向けて見通しを立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。

○福祉についての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、福祉に関することを自分事としてとらえ、学んだ内容を今後の実生活に生かそうとする態度を養う。

6 単元の観点別評価および評価規準

単元名	単元の評価規準		
	評価の観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
福祉学習	①困っている人をサポートするという「福祉」の基本的な考え方や、身の回りのバリアフリーやユニバーサルデザイン、福祉体験のテーマに関する内容について理解している。 ②パソコンや資料を用いた調査活動や講師の方への質問を、自分のテーマに応じて実施している。 ③福祉に対する自らの認識の高まりは、探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	①福祉体験の各講座テーマについて、自分が知りたい内容を見つけている。 ②パソコンを用いた調査活動や講師の方への質問を、自分が知りたい情報に応じて行うことができている。 ③学習発表会に向けて、各講座テーマに関して自分が調べたことや体験したことを整理し、結び付けて考えることができている。 ④学習発表会において相手に伝わるように分かりやすくまとめ、表現することができている。	①福祉体験に向けた調べ学習において、班員の調べた意見を参考にして、探究活動に進んで取り組もうとしている。 ②班員の長所を生かして、協力して学習発表会に向けた準備や発表に取り組もうとしている。 ③福祉に関することを自分事としてとらえ、学んだ内容を今後の実生活に生かそうとしている。

7 単元の指導・評価計画（17時間扱い）

時	ねらい	学習活動	知	思	態	評価規準
1	福祉に対しての興味・関心を抱かせる。 (情報収集)	・絵を描く活動を通して、「障がい」を定義づけする。 ・困っている人探しを行い、バリアフリーやユニバーサルデザインについて学ぶ。	○		○	知①「福祉」の基本的な考え方や、バリアフリーやユニバーサルデザインについて理解している。(ワークシート) 態③学んだ内容について、自分事としてとらえ、考えようとしている。 (ワークシート、授業観察)
1	体験までの見通しを持つ。 テーマに対する自分の予備知識を確認する(課題設定)	・「福祉体験・講演会」までの日程を知る。 ・各クラスごとの講座のテーマに対して、ウェビングマップを作成する。 (「テーマを考えよう」)		○		思①福祉体験の各講座テーマについて、自分が知りたい内容を見つけている。 (ワークシート)
6	テーマに関する情報収集を行う。(情報収集) 中間報告会 これまでの自分の学びをふりかえる。 (整理分析)	・自分のクラスの講座テーマに関する調べ学習を行う。 ・パソコンを用いた事前調査の仕方を学ぶ。 (「見通し」) ・自分が調べたことを他の人に伝える。 ・周りが調べたことを聞いて視野を広げる。 ・質問を受けて、自分が分からない部分を再確認する。	○	○		知②パソコンや資料を用いた調査活動を、自分のテーマに応じて実施している。(ワークシート) 思②パソコンを用いた調査活動を、自分が知りたい情報に応じて行うことができている。 (ワークシート) ○ 態①福祉体験に向けた調べ学習において、班員の調べた意見を参考にして、探究活動に進んで取り組もうとしている。 (ワークシート、授業観察)
1	これまでの自分の学びを報告し、体験で学びたいことをまとめる。 (まとめ表現) (課題設定)	・学習班内で自分たちの調査結果を報告しあう。 ・自分が体験で質問したいことを検討し、班内で共有する。		○	○	思④相手に伝わるように分かりやすくまとめ、表現することができている。 (ワークシート、授業観察) 態①福祉体験に向けた調べ学習において、班員の調べた意見を参考にして、探究活動に進んで取り組もうとしている。 (ワークシート、授業観察)

2	福祉体験・講演会。 (情報収集)	・福祉体験・講演会で、専門家の方に話を聞いたり実際に活動を行ったりして、各テーマに関することを学ぶ	○	○	知②講師の方への質問を、自分のテーマに応じて実施している。 (授業観察) 思②講師の方への質問を、自分が知りたい情報に応じて行うことができている。 (ワークシート)	
4	これまでの自分の学びを整理・分析する。 (整理分析) (まとめ表現)	・お世話になった講師へのお礼の気持ちを伝える。 ・福祉学習で学んできたこと、自分が伝えたいことをまとめる。 ・班内で伝えたいことを共有し、発表方法を考え、準備する。		○	○	思③学習発表会に向けて、各講座テーマに関して自分が調べたことや体験したことを整理し、結び付けて考えることができている。 (ワークシート、発表資料) 態②班員の長所を生かして、協力して学習発表会に向けた準備に取り組もうとしている。 (授業観察)
1	これまでの自分の学びを伝え、再確認する。 (まとめ表現)	・福祉に関するこれまでの学びを、他講座の人に対して発表する。		○	○	思④学習発表会において相手に伝わるように分かりやすくまとめ、表現することができている。 (授業観察) 態②班員の長所を生かして、協力して学習発表会に取り組もうとしている。 (授業観察)
1	福祉学習の取組をふりかえり、自分が得た学びを確認する。 (まとめ表現)	・福祉学習の取組をふりかえり、自分の得た学びやこれからの行動についての考えをまとめる。	○		○	知③福祉に対する自らの認識の高まりは、探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。(ワークシート) 態③福祉に関することを自分事としてとらえ、学んだ内容を今後の実生活に生かそうとしている。(ワークシート)

8 本時の指導

- (1) 目標 「知的・発達障害者」について各自の調査内容を伝え合うことで、体験で学びたいことをまとめる。

(2) 本時の実現状況を判断する際の具体的な生徒像と、目標実現を目指すための手立て

評価の観点	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する (C) と判断した 生徒への手立て
思考・判断 ・表現	・「知的・発達障害者」に関して自分が調べたことを整理して、分かりやすく班員に伝えている。	・「知的・発達障害者」に関して自分が調べたことを整理して、班員に伝えている。	・授業で使用したワークシートを見直させて、自分が調べた内容を相手に伝えられるように整理させる。
主体的に学習に取り組む態度	・班員の報告を参考にして、「福祉体験」で自分が学びたいことをまとめている。	・「福祉体験」で自分が学びたいことをまとめている。	・「福祉体験」のテーマを確認して、講師の方に聞いてみたいことをイメージさせる。

(3) 展開

	生徒の学習活動	指導上の留意点	評価 (観点・場面・方法)
導入	・本時の活動の目的を知る。	・本時の活動内容を確認して、生徒が見通しをもって学習できるようにする	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 本時の課題：福祉体験・講演会で、講師の先生への質問を考えよう </div>			
展開	・調査内容について、学習班内で報告会を行う。 →学習班の中で、分からなかったことを集約する。 ・自分が体験当日に学びたいこと(質問したいこと)をまとめる。	・「分からない」部分は、周りに聞いたり体験当日に質問したりすればよいことを再確認する。 ・調査内容や報告会を受けて当日に学びたいことを考えられるように個人の時間を確保する。	思④相手に伝わるように分かりやすくまとめ、表現することができている。 (授業観察・ワークシート) 態①福祉体験に向けた調べ学習において、班員の調べた意見を参考にして、探究活動に進んで取り組もうとしている。 (授業観察・ワークシート)

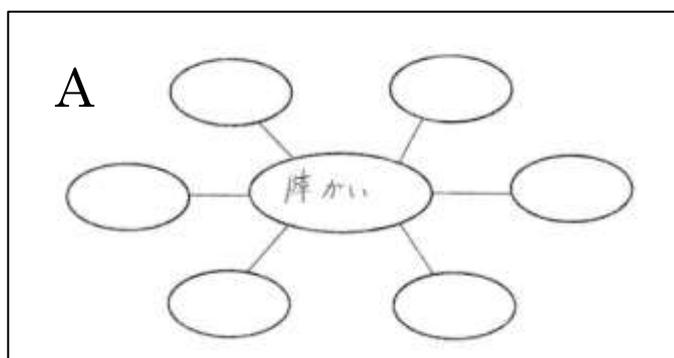
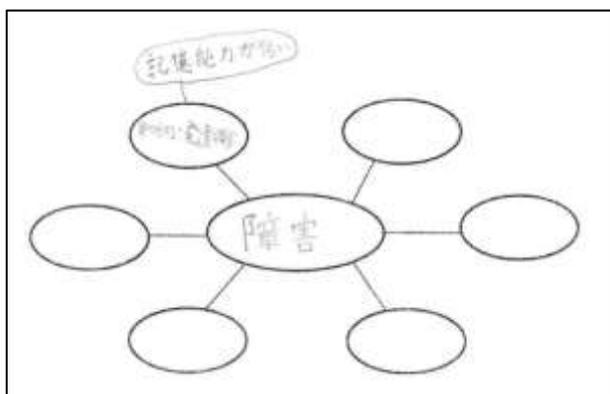
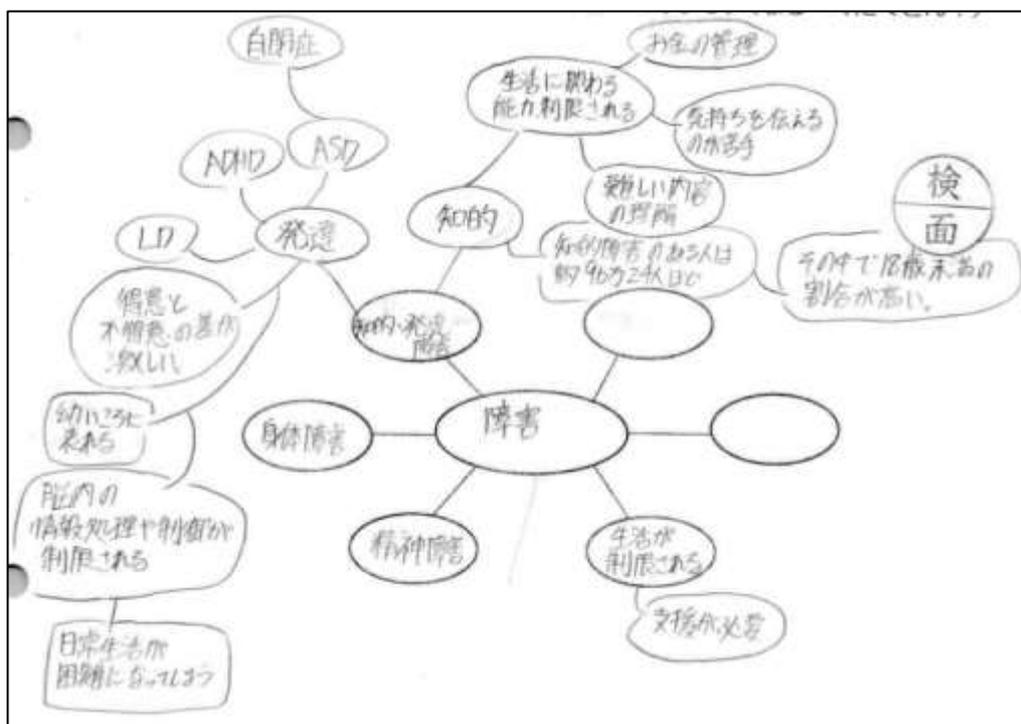
(2) 授業実践の工夫

今回、「福祉学習」の単元全体を通しての工夫点として、探究的な学習過程を二回繰り返すように計画したこと、感染症対策の観点から学年全体が同様の講演会を受講することが困難だったことから、ジグソー学習の手法を取り入れて各クラス別の講座を設定し、「福祉体験・講演会」と「学習発表会」を実施したことが挙げられる。以下、単元内で行った工夫について、探究的な学習過程の各段階別に示しておく。

○「課題設定」の段階での工夫

「福祉体験・講演会」の事前学習における課題設定の場面では、各クラスの講座テーマについて自分の理解度の状況（何を知っているのか、何を知らないのか）を把握するためにウェビングに取り組み、その結果から知っていることを深めたり、知らないことを新たに調べたりするなど、自ら進んで学習に取り組めるような工夫を行った。

生徒の記述から、クラス内での個人差が非常に大きいことが分かった。（下の生徒が書いたワークシートを参照）後日「福祉体験・講演会」の講師をお願いした団体に問い合わせたことが、本校の学区内にある2校の小学校のうち、1校が福祉に関する講演会を実施していたためだと考えられる。生徒によってはテーマに関するウェビングをほとんど書くことができず、自分が福祉学習で取り組むテーマについて何も知らないことを自覚した生徒の中には、その後の調べ学習で、例えば「知的・発達障害」にはどんな種類があるのか、それはどのようなものかについて調査を進めていた。



また、事前学習の最後に班内で各自が調べた内容の報告会を実施した。生徒たちの「情報収集」の能力には個人差がある。あまり調査が進められなかった生徒にも、他の人が調べた

内容を聞くことで自分なりの課題を持って「福祉体験・講演会」に臨んでもらうためである。後述の指導案は、この部分の授業実践を示している。(P12に、ウェビングでほとんど記述ができなかった生徒Aが書いた調べ学習の計画表と、班内報告会のワークシートを示す)

授業では、ここまで個々で調査を進めていた生徒がお互いに調べたことを再確認する場となった。Webで調査できる範囲をお互いの報告でカバーした所で、「福祉体験・講演会」は、実際に講師に話を聞くことができる機会であり、Webで調べられない当事者の思いや困り感が聞ける場」と伝えた所、ワークシートからは生徒からの注目がそこ（当事者の気持ちや思い）に集まっている様子が読み取れた。教師側の声かけが重要であることを再確認する一方で、生徒の自発的な興味を方向付けてしまったように感じた。

○「情報収集」の段階での工夫

「福祉体験・講演会」の事前学習では、令和3年度より導入された一人1台端末を利用した調べ学習を行うこととした。他教科の授業でもパソコンを用いた調べ学習を行っていたが、パソコンを開くものの、調べ学習が進まずに時間のみが過ぎていく生徒が見られた。授業の中で個別指導を行う中で感じた、上手く進められない生徒が困っていた点は、以下の2

○福祉体験で、実際に関わっている人の思いや、調べた上で感じた疑問などを学ぶため、計画的に調べ学習に取り組もう。

月日	今回は、これを調べる	今日分かったこと
10/20	知的発達障害について おおまかに調べる!	・知的障害かどのような状態のことかわかった。 ・知的障害者の難しいことかわかった。
10/21	知的障害と発達障害の のちがいに ついて	・知的障害と発達障害の のちがい ・発達障害について
10/28	、	・発達障害について 細かく調べられた。
11/9	知的障害を 調べる	・知的障害のしるしに ついてよくわかった。



①これまで、福祉体験で、実際に関わっている人の思いや、調べた上で感じた疑問などを学ぶために調べ学習に取り組みました。これまでの自分の調査結果を整理して、お互いに報告しましょう。

報告者	報告の内容
本人	
	知的障害に発達障害の区別がある。(知的障害: 知的、発達: 行動)
	発達障害の種類は、ADHD、LD
	発達障害とは、脳の機能障害のこと。個人差がある。学習障害、コミュニケーション障害

②自分が福祉体験で学びたいこと(知りたい、質問したい)を整理しましょう。

私が知りたいことは、自分は、知的障害と発達障害の違いが、
 7歳未満の時にどう調べたのか、いざなうと聞き、どう
 話しているか、どう接する方がいいかわからないことに気が付いたため、
 話し方について知りたいと決まりました。



点であった。

- ・調べる行為に集中してしまい、本来の目的からズレた内容を見てしまう。
- ・その時間の調べ学習を終えた時に、何が分かったのかをまとめていない。

この2点を解決するために、授業の最後の時間にその日の調査のふりかえりを行い、その日に調べたこと、次回調べることを記録させることとした。

ふりかえりを調べる内容の備忘録として使用していた生徒がおり、目的からズレることを防ぐという一定の効果はあった。一方で、その日の調査で分かったことについては、ふりかえりには書かずに調査の用紙にのみ記入する生徒がいた。調査用紙にはふりかえりと同じ内容を記入（スペースの関係で要約することになるが）することになるため、生徒の立場からすると作業が煩雑になったように感じた。

(下が生徒のワークシート。右の生徒は分かったことの記述がほとんどないが、実際に調べ学習はきちんと進めていた。)

福祉体験で、実際に関わっている人の思いや、調べた上で感じた疑問などを学ぶため、計画的に調べ学習に取り組もう。

月日	今回は、これを調べる	今日分かったこと
10/20	知的障害がある年代代 行動(症状)	知的障害は、知的能力(頭の働き)に不足、知的能力は5歳生児と同等かそれ以下とあります。
10/21	発達障害がある年代代	発達障害は知的障害と同じように生まれる障害で、脳の働きが違う特徴があることがわかりました。
10/28	発達障害の行動(症状)	発達障害には、自閉的傾向(物忘れ(ADHD)など)と知的障害と同じように、障害によって強みと弱みがあることがわかりました。
11/9	発達障害の一つ「自閉スペクトラム症」について① <起る年代・性別・人数>	発達障害の中の一つ自閉スペクトラム症は、その数は20~50人に1人とされ、男性が9割(女性の約2~4割)自閉スペクトラム症の割合は2歳未満の子に多いとされています。
11	発達障害の一つ「自閉スペクトラム症」について② <特徴・行動・特徴>	

福祉体験で、実際に関わっている人の思いや、調べた上で感じた疑問などを学ぶため、計画的に調べ学習に取り組もう。

月日	今回は、これを調べる	今日分かったこと
10/20	発達障害のことについて 調べる	発達障害とは、脳の働きが通常の子と異なり、生まれながらに持っている脳の働きが異なる状態のことです。
10/21	知的障害のことについて 調べる	
10/28	〃	
	知的障害と発達障害の人の対応の方法を調べる	

また、小学校でも福祉講演会を実施していたことが分かったため、「福祉体験・講演会」事前打ち合わせで講師と相談して、より深い内容を扱うようお願いしたところ、「障害者やその家族の感じ方や考え方」など、インターネットでは分からない、その人に話を聞いてはじめて分かる内容まで踏み込んで話していただけた。小学校での生徒の既習内容を把握し、中学校での学びに生かすことの大切さを実感した。

○「整理・分析」の段階での工夫

現在の1年生は、国語や社会科をはじめ、他教科でもパソコンを用いるなどしてグループでの発表を行う授業を実践してきた。その際に画面の色やアニメーション効果、見せる写真の加工など、「どのように伝えるか」を工夫することに集中してしまい、「何を伝えるか」の整理を疎かにすることで、発表全体が分かりにくくなってしまいう状況が見られた。

そこで授業時数の都合上、「福祉体験・発表会」と「学習発表会」の間に冬休みを挟むこともあり、宿題として「自分が何を伝えたいのか」を個人でまとめさせた。伝えたいことを

一度考えさせた上で各班で情報を共有してから発表方法の工夫を行わせるようにした。

班で伝えたいことを確認してから発表準備に入ったことで、目的を持って発表方法を工夫する様子が見られたものの、授業の中で十分時間が取れなかったこともあり、個人では上手く整理できていない者も見られた。

(右は生徒 A のワークシート)

○「まとめ・表現」の段階での工夫

「学習発表会」では、各クラスの講座で学んだ生徒を同じ教室に振り分け、自分のテーマについて何も知らない相手に向けて自己の学びを表現する場として設定した。事前準備においては、「全く知らない相手にも分かりやすい発表」を心がけさせ、発表方法

の条件として原稿を読む以外に何かを使用することを提示した。生徒達は、例えば社会科では他国の生活を写真で示しながら説明する課題、国語科では学習した故事成語を劇形式で発表する課題など、他の教科においてもプレゼンテーションを経験している。その経験を生かして、劇を行う班や、講師の方が自分たちにさせてくれた体験を実演する班など、各自の長所を生かして協力して発表に取り組む場面が見られた。

また、「学習発表会」後に「福祉学習」全体をふりかえる場面を設定し、自分が学んだことや、今後に生かすことなど、自分の成長を客観的に考えさせた。その際、「学習発表会」時にお互い記入させた「評価用紙」を見ることで、ふりかえりの場面で他の人から見た自分たちの発表への感想を共有できるようにした。(右は生徒 A のふりかえり。)

生徒たちのふりかえりからは、以下の3点が読み取れた。

①福祉体験で学んだことや、事前の調べ学習で調べた内容から、一番重要だと思ったこと、(他の人に一番伝えたいこと)を選び、書いてください。

・時と場合によって伝え方を考える。

②他のクラスの人には、あなたのテーマについて全く学習していません。何も知らない人に対して、①の内容を伝えるためには、何を伝える必要がありますか？これまでの学びをふりかえて、箇条書きで挙げてみましょう。

・言葉で説明しにくいときは、絵や写真、身振りなどを使う。
 ・イラストや写真などを使うときは、名前やポイントがわかるように書く。
 ・正面から声を出す。
 ・不慣れな人には、はげます、出かけることは大丈夫、出来たことだけ挙げる。
 ・普段聞かれている人の伝え方はスラスラと挙げてみる。

③②で挙げた内容は、どのようにして伝えたら分かりやすいでしょうか？発表当日に向けて準備するもの、ことを挙げてみましょう。

①で書いた。
 <おもしろいこと、口で説明する。(絵と写真から)>

(例)内容：文字(文章やキーワード)、図、絵、画像など。

③他の人たちの発表を見たり、評価用紙を読んで、自分たちの発表について良かったところ、改善したいところを教えてください。

・体験コーナーなどに少しスムーズにできなかった。
 ・スライドをいかり作本し、見ている人が笑っていた。
 ③ 話し言葉が口で出た。

④これから、あなたが「福祉」に関して懸念していることと思うことを教えてください。

今日自分を調べたことだけでなく、他のクラスが発表していたこともこの会場の生活に活かしていきたいと思いました。福祉について知っていることはまだまだ少ないので、少しでも知って、積極的に学ぶ必要があると思いました。

- ①発表での実演や図示の工夫が発表を行う上で有効であると感じる生徒が多かった。
- ②周りからの評価用紙を見ることで上記のことを実感する生徒もいた。
- ③福祉に関して別テーマの講座で学んでいた他クラスの発表を見て、自分たちの学びとの共通点に気づき、「福祉」全体で大切なことに気付く生徒がいた。

(3) 目標の達成を意識した授業での工夫に関する成果と課題

授業の工夫を行ったことで得られた成果としては、以下の通りである。

- ・「課題設定」の段階で生徒自身に自己の理解度を把握させることで、その後の調べ学習に積極的に取り組ませることができた。
- ・ただ体験をさせるのではなく、事前学習において注目すべきポイントを持たせることで、生徒がそこに集中させられることが分かった。
- ・「情報収集」の授業のふりかえりで次回の授業で調べることを記入させることで、目的を見失わずに調べ学習に取り組ませることができた。
- ・小学校での取組を把握し、似たような体験活動や講演会に取り組ませる際により発展的な内容となるよう手配することで、体験活動の内容を充実させることができた。
- ・発表会等の準備に入る前に、自分が伝えたいことを「整理・分析」させることで、伝えたい内容が伝わるように発表方法を選択させることができた。
- ・学習発表会における「まとめ・表現」の段階で、他教科の取組を生かしてプレゼンテーションに取り組むなど、教科横断的な指導の有効性を生徒も教師も実感できた。
- ・発表会のふりかえりを行う際に、他の班が記入した「評価用紙」を見ることで、周りから見た自分たちの発表の良さを実感させることができた。
- ・「福祉学習」の単元全体を通して、探究的な学習のサイクルを二回りするように計画し、ジグソー学習の手法を取り入れて「福祉体験・講演会」と「学習発表会」を設定したことで、学習内容をより深めることができた。

一方で課題としては、以下のことが挙げられる。

- ・体験時に注目すべきポイントを、生徒の関心というより教師の誘導で示してしまった。生徒同士の話し合いの中から注目すべきポイントを出せるよう、事前学習の工夫をしていきたい。
- ・「情報収集」の授業のふりかえりで今日分かったことを記入させることは、教師側にとって生徒の取組状況を把握しやすくなる一方で、生徒側にとっては同じことを2回書くことになるので、前向きに記入しなくなる。ふりかえりの内容を再検討したい。
- ・「整理・分析」の取組を宿題にすることで、各自の取組内容に差が生じてしまったため、授業の中でも時間を確保する必要があった。
- ・「まとめ・表現」で生きた他教科の取組は、総合担当が意図したものではなかった。総合的な学習の時間と他教科の学習内容の関連性を意識できる工夫を行うことで、より計画的、意図的に教科横断的な指導ができるのではないかと感じた。

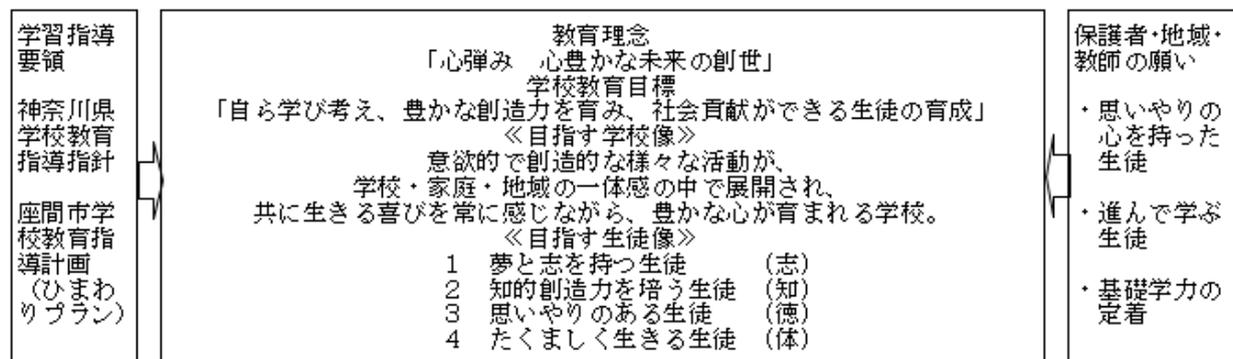
4 全体計画の改善

(1) 全体計画の改善の方向性

令和3年度における本校の総合的な学習の時間の全体計画は16ページの通りである。全体計画は全校に関わることなので、各学年の総合的な学習の時間の担当者と協議を行いながら改善点を検討した。本来ならば、目標の実現のためにふさわしいと判断した学習内容や活動を設定するべきである。しかし現実的な問題として、座間市全体で行っている内容（防災

教育) もあり、現在実施している内容を全面的に変更することは難しい。そこで、現在行っている学習内容や活動を生かす形で改善点を探ることとした。

令和3年度 座間市立相模中学校 総合・キャリア教育の全体計画



【キャリア教育の目標（生徒に身に付けさせたい力）】

人間関係形成・社会形成能力…他者理解、意見交換を元に、協力して社会参画する力
自己理解・自己管理能力…自分を理解し、どう学ぶか自分をコントロールする力

【教育活動内で意識】

- ・ 各教科
- ・ 道徳
- ・ 特別活動
(学校行事)

【総合的な学習の時間の目標】

「将来をたくましく生きる力を培う」
様々な事象に関する体験活動の場で、学び方やものの考え方を身に付けようとする問題の解決や探究学習を行う中で、自ら課題を発見し、仲間と協力してねばり強く取り組み、自分の生き方を主体的に考えようとする。

【総合的な学習の時間で育てようとする資質・能力及び態度】

学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会との関わりに関すること
<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的に応じて手段を選択し、情報を収集する。 ・ 相手や目的、意図に応じて、わかりやすく表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標を明確にし、課題の解決に向けて計画を立て、ねばり強く取り組む。 ・ 自らの行為について、責任をもって意思決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重する。 ・ 互いの特徴を生かし、協同して課題の解決に取り組む。

【各学年の内容及び学習活動】

1年 福祉学習（地域を知る）	2年 職業学習（地域に学ぶ）	3年 個人レポート（地域で生きる）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化問題や障害のある人々等に関心を寄せ積極的に関わりより良い生活を共に築いていこうとする ・ 福祉体験等から問題を見つけ、幅広く調べ、それについて解決方法等を考え、実践への意欲を持つ。 ・ 学び方の基本を理解し、調べたこと、考えたこと、学んだことなどを効果的に表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の産業等働く場に向け、実際に職場体験をすることにより、働くことの意義や苦勞を実感する。 ・ 地域で働く大人との交流を通じてものの考え方や仕事の課題をどのように解決しようとしているかを考える。 ・ 自己の職業観についての意識を高め自らの将来について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら興味関心を持ったテーマを見つけ、それについて1、2年で培った学び方等をベースに更に発展的に取り組んでいく。

全学年共通 防災学習

・ 避難訓練や防災講演会、防災体験などを通して、災害の恐ろしさと防災意識の大切さについて学ぶ。

【指導方法】

- ・ 対話やコミュニケーションを重視した学習活動の充実（グループ活動の設定など）
- ・ 協同して課題に取り組ませる指示、学習活動の工夫（協同して取り組む課題設定など）
- ・ 学習活動に計画的に取り組ませる工夫（日程の提示や計画表作成など）

【指導体制】

- ・ 各学年の総合、キャリア担当を中心とした、指導計画の立案
- ・ 生徒への指導は各学年部によって協力で行う。
- ・ 担任以外の教職員による支援体制を確立する。
- ・ 地域の福祉施設や企業の協力のもと、体験活動を行う。

【学習の評価】

- ・ ポートフォリオやキャリアパスポートを活用した評価を充実させる。
- ・ 授業内での学習状況の観察をもとにした評価を行う。
- ・ 生徒の振り返りをはじめとした個人内評価を重視する。

(2) 現在の全体計画の改善すべき点の検討

本校の総合的な学習の時間担当者で検討した結果、現在の本校実態と照らして全体計画で改善すべき点と対応する改善策として、以下の3点が挙げられた。

- ・「育てようとする資質・能力および態度」は示されているが、新学習指導要領の「資質・能力」のように3観点の形で示されていない。
→本校の総合的な学習で育成を目指す「資質・能力」を、3つの観点の形で整理する。
- ・各学年の取組の関連性があまり意識されていない。
→各学年の取組の内容に関連性を持たせる。また3年間を見通してどのように生徒を育てるか、各学年の重点目標を設定すること。
- ・他教科との関連を整理して、教科横断的な視点を意識すること。

(3) 「資質・能力」の整理および、各学年での目標の重点化

「はじめに」でも触れたが、本校の総合的な学習の時間の現状として、3学年で扱う学習内容に関連性が乏しく、前の学年での学びが次年度の学習に生かされにくい状況が見られた。3年間に行っている現在の取組を再検討する中で、1年生で取り組んでいる「福祉学習」と、2年生で取り組んでいる「職業学習」、さらには座間市全体で取り組んでいる「防災学習」が共通して関連する「SDGs」を3年間の学習内容の柱と捉えることとした。

(以下は検討時の資料)

(エ) 総合的な学習の時間

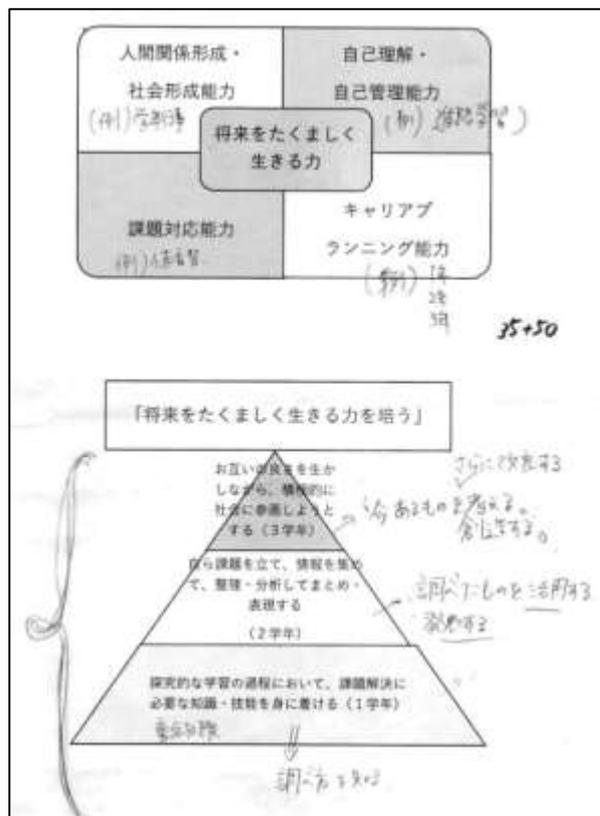
① 目標 「将来をたくましく生きる力を培う」～地域教育力の活用～
地域の教育力を活用する中で、体験等を通じて得た課題に対して、総合的にとらえ、関わりを実感しながら、ねばり強く、多様な考えを吸収し課題に創造的に取り組み、もの考え方を身につけ、自分の生き方について主体的に考える態度を養う。
※教科を横断的に取り扱いたい。探究的な学習にしたい。

② 学年主題

	1年生(50時間)	2年生(70時間)	3年生(70時間)
学年テーマ	地域を知る 世界を知る	地域に学ぶ 世界に学ぶ	地域の未来を考える 世界の未来を考える
仲間づくり	遠征	校外学習	修学旅行
扱う内容	SDGsを全体の柱にして		
防災学習	納必講演会	沼田センター見学	防災体験
キャリア学習	職業講演会 将来の夢をもつ	職業体験 地域との関わり	進路説明会 将来を考える
思いやり・命 題	福祉体験	トモのちのち講演会 (事前指導)	個人レポート

SDGs (1) #5 #10 #11 #13 #17

【防災について(昨年度中に決定していること)】
・相模が丘小学校が今年度(令和2年度)から取り組みはじめ、来年度(令和3年度)まで取り組む。
・次に、相模野小学校が令和4-5年度に取り組みすることになっている。
・小学校の取り組みを受けて、相模中学校が令和6-7年度に取り組みすることになっている。



その上で各「資質・能力」について、総合の目標と関連させ、次のように整理してみた。

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
持続可能な社会の実現に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。	実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。	探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとしている。

また、3年間を見通したときに、各学年の段階ではどんなことを特に重視して身に付けさせたいかの意見を集め、特に以下の点を重視してはどうかと考えた。

1年生：情報検索の方法や発表の方法など、学習を進める際に必要となる「知識及び技能」
 2年生：集めた情報を自分なりに整理・分析して、活用する「思考力・判断力・表現力等」
 3年生：学んだことを生かして社会に自ら働きかける、社会参画を行う態度
 「学びに向かう力、人間性等」

3年間で繰り返し探究的な学習を進めていくと考えた際に、まず1年生で身につけておくべきなのは学校図書館の使用方法やインターネット等を利用した情報検索の方法(端末の操作法や情報の取り扱いのルールも含む)、さらに学びを発表する際に様々な手段があること(プレゼンテーションソフトの利用や、実演、体験等)など、学習を進める際に必要となる力だと考えた。続く2年生では、1年生で学んだ力を活用して、自ら課題を立て、集めた情報を自分なりに整理・分析して表現する探究的な学習を進めていく力を、最後の3年生では学んだ内容を生かしてこれからの社会に自分がどう関わっていくかを考える段階まで育てていきたいと考えている。

(4) 教科横断的な視点の意識

実際に1年生の「福祉学習」の授業を行う中で、情報の調べ方やまとめ方、発表の仕方など、学習を進める中で必要となる「技能」の部分では、教科の指導が生きたことを実感した。ただ、計画段階で想定していたわけではなく、各教科で指導を行っていたことがたまたま結果として生きた、という形だった。また、「福祉」や「職業」など、総合的な学習の時間に関連する学習内容は、他教科でも指導する場面があるが、それがいつ、どのように指導されているかをあまり考えてはこなかった。学習指導要領解説のP93に示されている「年間指導計画(例)」のように、総合的な学習の時間の内容と関連する各教科の学習内容を把握した上で学習計画を立てること、教科横断的な視点を意識していくことが有効だと考える。

残念ながら、未だ全体計画の完成には至っていない。次ページに検討中の案を掲載する。

(5) 全体計画の改善に関する成果と課題

全体計画の改善に向けた取組における成果としては、本校の総合的な学習の時間を通して育成すべき「資質・能力」や各学年での重点目標を設定できたことに加えて、本校の総合的な学習の時間の問題点を個人ではなくチームとして共有し、改善に向けて動きはじめたことが挙げられる。課題は、そもそも全体計画の改善に着手したばかりで、全体計画の完成に至らなかったことである。

令和4年度 座間市立相模中学校 総合・キャリア教育の全体計画（案）

学習指導要領
神奈川県立座間市立相模中学校
教育指導方針

座間市立相模中学校
教育指導計画
(ひまわりプラン)

教育理念
心豊かな未来の創世
学校教育目標
力を育み、社会貢献ができる生徒の育成
目指す学校像

意図的で創造的な様々な活動が、学校・課程・地域の一体感のなかで展開しながら、豊かな心が育まれる学校。

生徒につけたい力は、保護者・学校アンケート結果を生かして校長先生と相談。

保護者・地域・教師の願い
・思いやりの心を持った生徒

左と真ん中の内容は、総合担当で変えられないものなので固定で。

人間関係へは、座間市共通なので固定。もう一つは4つの力から選びましょう。

【キャリア教育の目標（生徒に身に付けさせたい力）】
人間関係形成・社会形成能力…他者理解、意見交換を元に、協力して社会参加する力
自己理解・自己管理能力…自分を理解し、どう学ぶか自分をコントロールする力

【教育活動内で意識】
各教科
活動(学校行事)

総合の目標はそのままでもよい、となったので、据え置き

【総合的な学習の時間の目標】
「将来をたくましく生きる力を培う」
様々な事象に関する体験活動の中で、学び方やものの考え方で、自ら課題を発見し、仲間と協力してねばり強く取り組む。

【総合的な学習の時間で育てようとする資質・能力】
知識・技能
思考・判断・表現
社会や実生活の中から問いを見つけ、自分で課題を立て、情報を集め、自ら学び、探究学習を行うこと。

資質・能力は、とりあえず3観点に対応させた。これを基に評価文を作成することになる。

内容及び学習活動は、1年福祉体験、2年職場体験を元に、3年では自由度を確保するためSDGsの学習として設定。

1年 福祉学習（地域を知る）	2年 職業学習（地域に学ぶ）	3年 SDGs学習（地域で生きる）
<ul style="list-style-type: none"> 困っている人をサポートすることが福祉であり、様々な分野でサポートを行う工夫がなされていることを理解する。 福祉体験等から問題を見つけ、幅広く調べ、考えたことを効果的に表現する。 福祉について、班員と協力して発表準備を行う中で、他者の意見も参考にして、福祉の大切さについて意見を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域で働く大人との交流を通じて働くことの意義や苦労、もの考え方や仕事の課題解決の方法を理解する。 職場体験等から問題を見つけ、幅広く調べ、考えたことを効果的に表現する。 職業について、班員と協力して発表準備を行う中で、他者の意見も参考にして、働くことの大切さについて意見を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会の実現のためには、「経済」「社会」「環境」の調和が取れた発展が大切であることを理解する。 実社会や実生活等から問題を見つけ、幅広く調べ、考えたことを効果的に表現する。 SDGsについて、班員と協力して発表準備を行う中で、1,2年の学習の成果や他者の意見も参考にして、持続可能な社会の実現の大切さについて意見を発信する。

全学年共通 防災学習
・避難訓練

指導方法、指導体制、学習の評価については、今のところ据え置き。

【指導方法】	【指導体制】	【学習の評価】
<ul style="list-style-type: none"> 対話やコミュニケーションを重視した学習活動の充実（グループ活動の設定など） 協同して課題に取り組ませるための課題設定や、学習活動の工夫 学習活動に計画的に取り組ませる工夫（日程の提示や計画表作成など） 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の総合、キャリア担当を中心とした、指導計画の立案。 生徒への指導は各学年部によって協力して行う。 担任以外の教職員による支援体制を確立する。 地域の福祉施設や企業の協力のもと、体験活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ポートフォリオやキャリアポートを活用した評価をせる。 授業内での学習状況のモニタリングとした評価を行う。 生徒の振り返りをはじめ個人内評価を重視する。

総合的な学習の時間 について

【主要の目標】
統合的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協力的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

【高等学校における教育目標】
自ら学び考え、豊かな創造力を育み、社会貢献ができる生徒の育成

【高等学校において定める目標】
「将来をたくましく生きる力を培う」様々な事象に関する体験活動の中で、学び方やものの考え方を身に付けようとする問題の解決や探究学習を行う中で、自ら課題を発見し、仲間と協力してねばり強く取り組み、自分の生き方を主体的に考えようとする。

【高等学校において定める内容】

目標を実現するにふさわしい探求課題	探求課題の解決を通して、育成を目指す資質や能力	学びに向かう力、人間性等
自己に関すること（高校のしくみ・高校の種類・進路選択）（テスト計画・ふりかえり）（学期ごとのふりかえり）	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
人間関係形成・社会形成能力の育成（学業行事、学校行事）	知識及び技能	学びに向かう力、人間性等
自分自身の生き方について（職業講話・職場体験・生活設計、マネープラン）	他教科等及び、総合的な学習の時間等に関する知識及び技能	学びに向かう力、人間性等
学習等に関すること（探求的な学習のよさ、課題解決に向けた情報収集、整理、分析）	課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ、表現などの探求的な学習の過程において、主体的に学びに向かうことのできるようになる。	学びに向かう力、人間性等

【情報活用能力】
探求的な学習の過程においてコンピューターや情報通信ネットワークなどを適切かつ効果的に活用する。情報や伝達、整理、発信などの学習活動

【言語能力】
他者と協働して課題を解決しようとする学習活動

【考えるための技法】
比較する、分類する、関連付けるなど

【その他】
知五に開通し、学習や生活に必要とされた資質・能力

Ⅲ 研究成果と課題

1 研究成果

今回の研究の成果を研究仮説に対応して整理すると、以下の通りである。

- ①「資質・能力」を明確にした総合的な学習の時間の目標や指導・評価計画の作成によって、どのような力を身に付けさせるかを意識して指導にあたることができた。
- ②単元全体を探究的な学習の過程となるよう計画し、各段階の目的を意識して指導の工夫を行ったことで、目的を見失うことなく効果的に学習を進めることができた。
- ③全体計画の改善に取り組み、3年間で育成を目指す「資質・能力」や各学年の重点目標を考えることができた。

2 今後の課題

今回の研究において、今後改善すべき課題を整理すると、以下の通りである。

- ①今回は1学年の「福祉学習」における「資質・能力」の設定、指導に留まったので、3年間を見通した指導・評価計画を作成していくこと。
- ②探究的な学習の過程の各段階で見えてきた改善点を、次年度に引き継いで授業改善に役立てること。
- ③各学年の重点目標や教科横断的な視点を踏まえた、全体計画の作成に継続的に取り組むこと。

Ⅳ おわりに

本研究では、生徒に身に付けさせたい「資質・能力」を意識して、1年生の「福祉学習」が探究的な学習となるよう単元計画やワークシート等の工夫を行ってきた。「資質・能力」を明確にしたことで、指導に当たる学年の他の教員も目的を見失うことなく指導ができた。

一方で、総合的な学習の時間の全体計画については、完成させることはできなかった。今年度は時間割を調整して各学年の総合的な学習の時間の担当者会議を行う時間を確保してもらうなど、体制を整えていただくこともできたので、引き続き全体計画や各学年の単元計画の検討を含め、授業改善の取組を継続していきたいと考えている。

Ⅴ 引用・参考文献

「中学校学習指導要領（平成29年告示）」文部科学省 2017

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総合的な学習の時間編」文部科学省 2017

「「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料中学校総合的な学習の時間」
文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター 2021

「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」文部科学省 2011

「中学校キャリア教育の手引き」文部科学省 2011

笹谷秀光監修「SDGs 見るだけノート」宝島社 2020

田村学・黒上晴夫「こうすれば考える力がつく！中学校思考ツール」小学館 2014